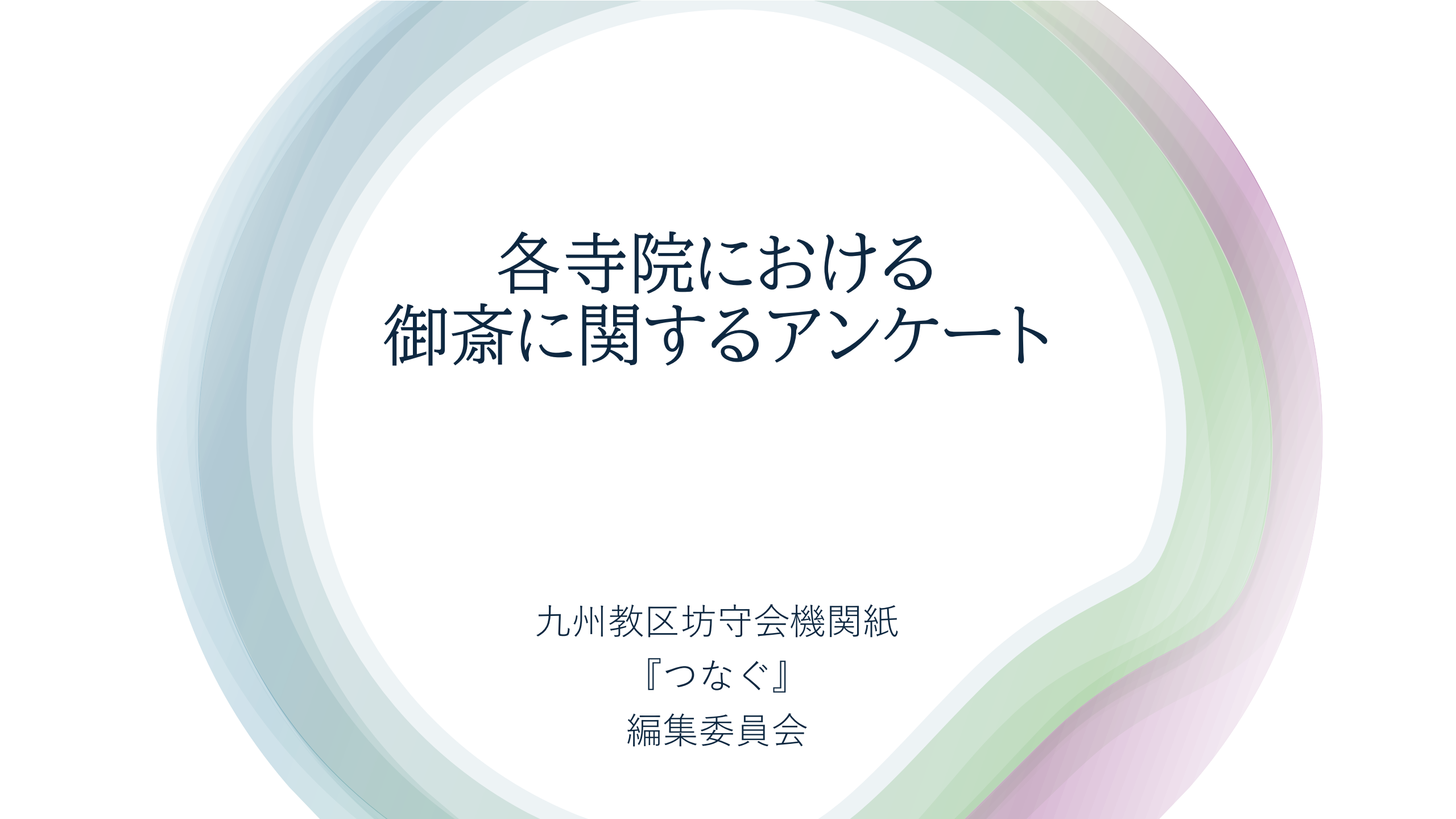




各寺院における 御齋に関するアンケート

九州教区坊守会機関紙

『つなぐ』

編集委員会



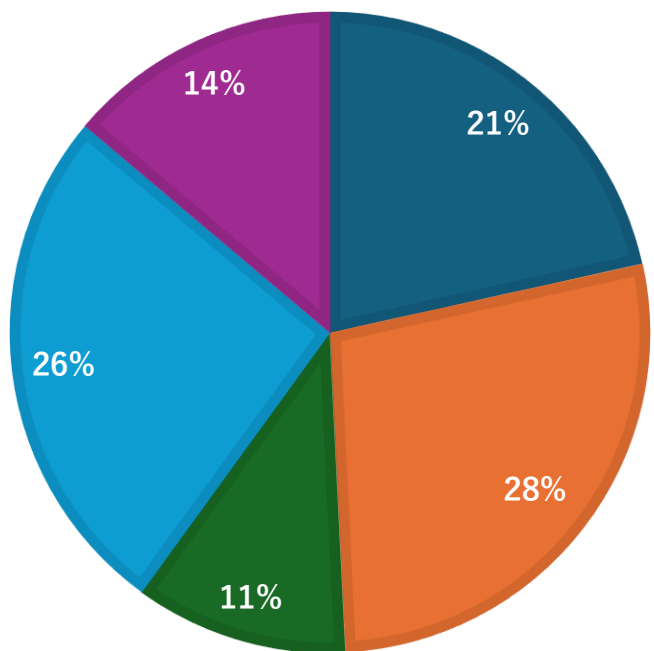
配布数：110通

アンケート回答総数：65通

回収率：59%

【基本情報】

御寺院の所在地

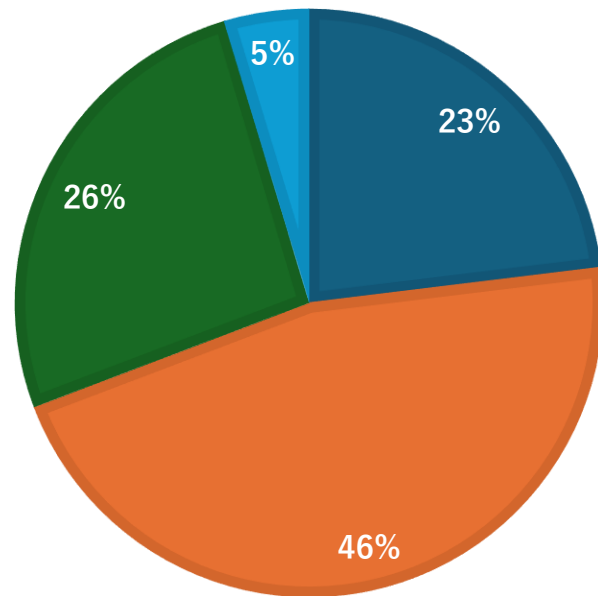


■ 日豊 ■ 久留米 ■ 長崎 ■ 熊本 ■ 鹿児島

選択肢	回答数
日豊	14
久留米	18
長崎	7
熊本	17
鹿児島	9

【御斎の実施】

1. 現在、法要や行事の際に御斎を実施していますか？

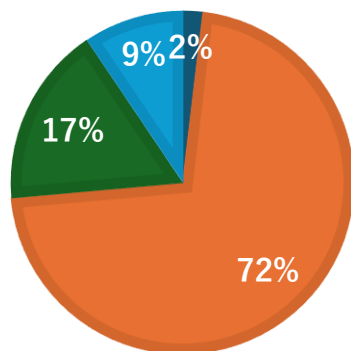


■ 毎月実施している ■ 行事によって実施している
■ 以前は実施していた ■ 実施していない

選択肢	回答数
毎月実施している	15
行事によって実施している	30
以前は実施していた	17
実施していない	3

2. 御齋の提供方法について

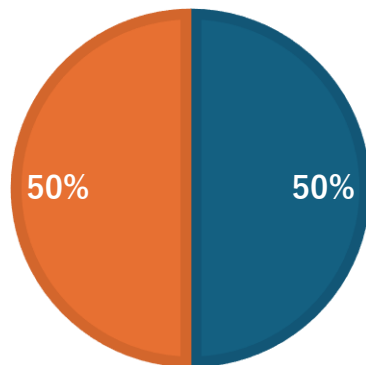
A [手づくり]



■ 寺族が調理 ■ 門徒・婦人会が準備
■ 手作り・外注両方 ■ 回答なし（実施していない）

選択肢	回答数
寺族が調理	1
門徒・婦人会が準備	38
手作り・外注両方	9
回答なし（実施していない）	5

B [外注（仕出し・弁当など）]

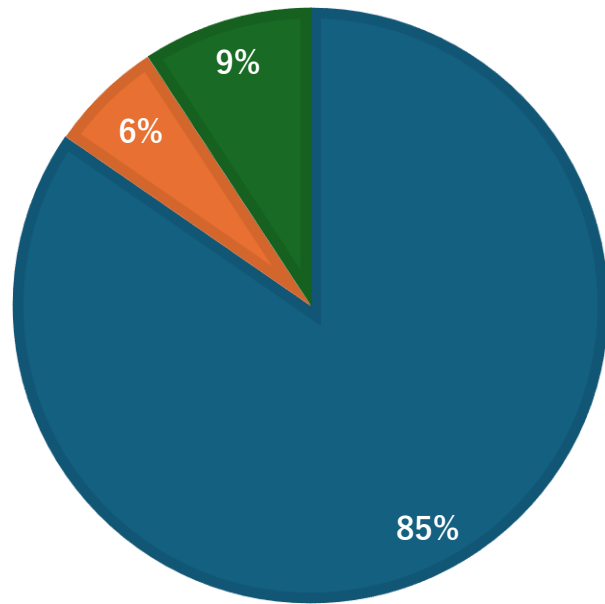


■ お寺で食べている ■ 持ち帰り

選択肢	回答数
お寺で食べている	6
持ち帰り	6
その他	0

【御齋の内容について】

3. 御齋の内容



■ 精進料理中心 ■ 肉や魚を使った献立 ■ その他

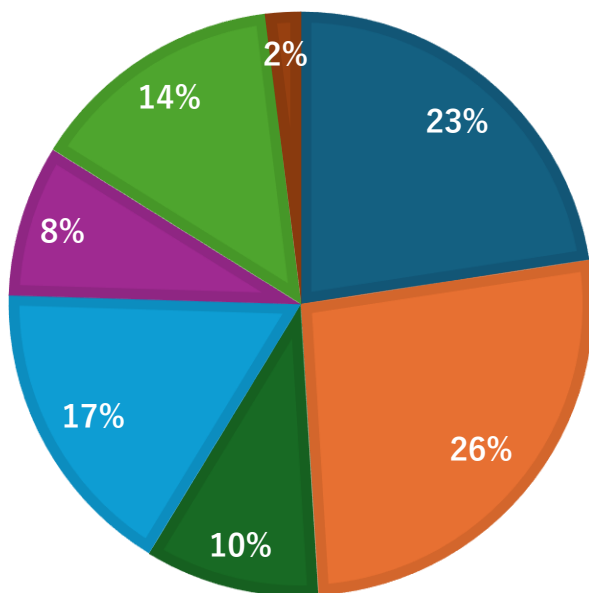
選択肢	回答数
精進料理中心	55
肉や魚を使った献立	4
その他	6

【その他の回答内容】

- ・ 弁当屋さんにおまかせ
- ・ おにぎり、お味噌汁、あと一品
- ・ 報恩講は精進、その他は精進でない。
- ・ お磨きなどの時はお弁当をとっている。
- ・ （弁当などを）事由に選んで、寺または自宅にて食べる。
- ・ 仕出しの弁当は助六寿司

【御齋の内容について】

4. 内容を決める際に重視している点（複数選択可）



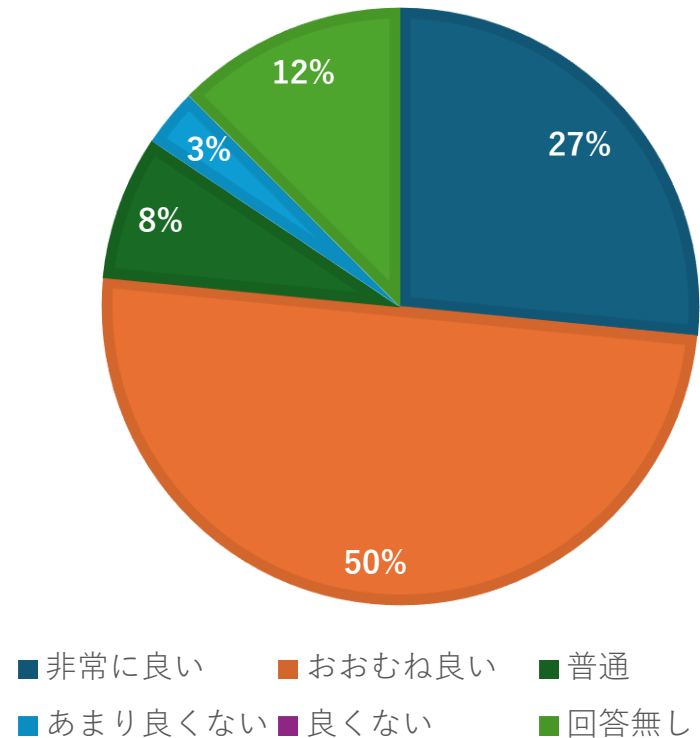
■ 仏事としての意義 ■ 伝統の継承 ■ 参加者の年齢層
■ 準備のしやすさ ■ 費用 ■ 衛生面
■ その他

選択肢	回答数
仏事としての意義	35
伝統の継承	41
参加者の年齢層	15
準備のしやすさ	26
費用	13
衛生面	22
アレルギー対応	0
その他	3

【その他の回答内容】
・ 坊守と女性役員が相談。
・ ご門徒の考えで準備。

【参加者の反応】

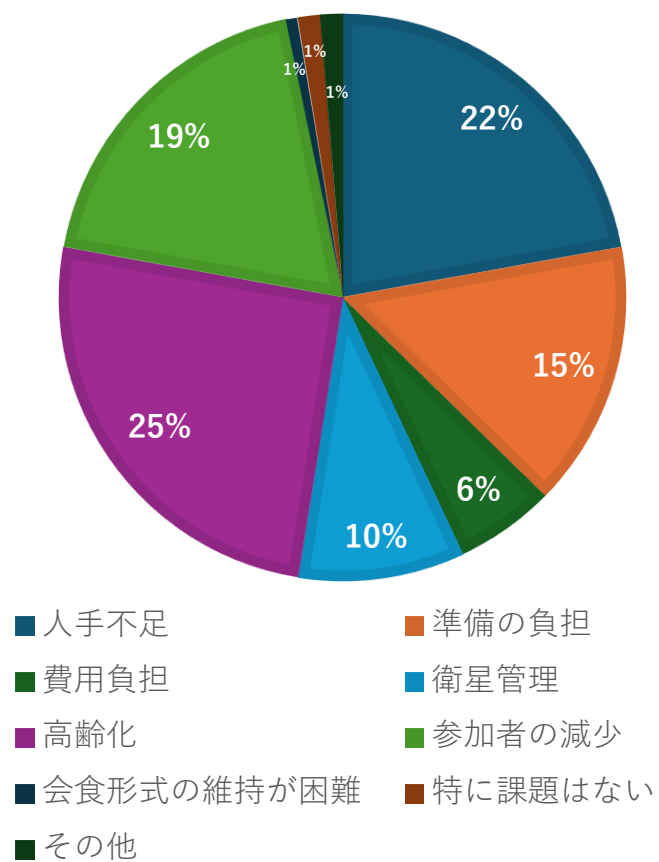
5. あなたから見てお斎に対する参加者の反応は次のうちどれですか？



選択肢	回答数
非常に良い	17
おおむね良い	32
普通	5
あまり良くない	2
良くない	0
回答無し	8

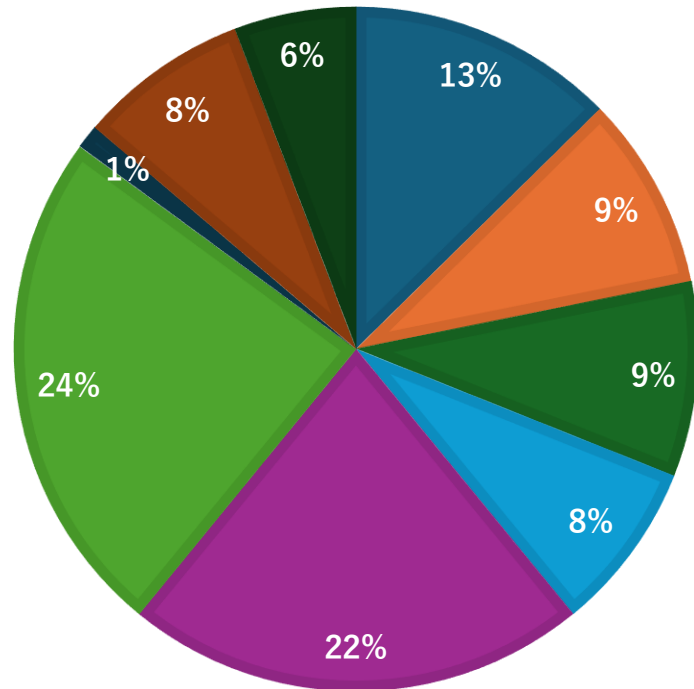
【課題について】

6. お齋を続けるうえでの課題（複数選択可）



選択肢	回答数
人手不足	35
準備の負担	24
費用負担	9
衛星管理	15
高齢化	40
参加者の減少	30
会食形式の維持が困難	1
特に課題はない	2
その他	2

7. 近年の変化やお斎を縮小・中止した理由について（複数選択可）



■ 会食から弁当に変更 ■ 回数を減らした ■ 内容を簡略化した
■ 特に変化はない ■ 感染症対策 ■ 人手不足
■ 経費負担 ■ 参加者ニーズの変化 ■ その他

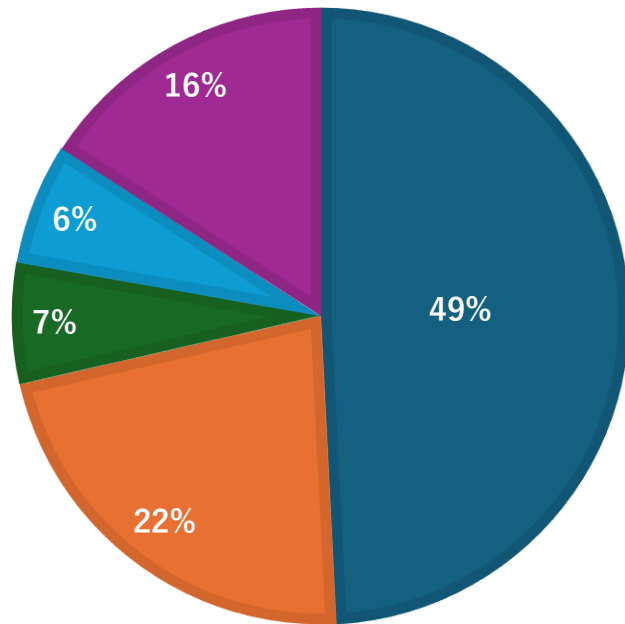
選択肢	回答数
会食から弁当に変更	11
回数を減らした	8
内容を簡略化した	8
特に変化はない	7
感染症対策	19
人手不足	21
経費負担	1
参加者ニーズの変化	7
その他	5

【その他の回答内容】

- ・ 弁当持ち帰りから会食に変更。
- ・ 精進料理への苦手意識。
- ・ 再開してまだ2回、コロナがきっかけで中断した。
- ・ 作り手の参加が少なくなった。
- ・ 門徒の負担大（高齢化）。

【今後について】

8. 今後のお斎のあり方について

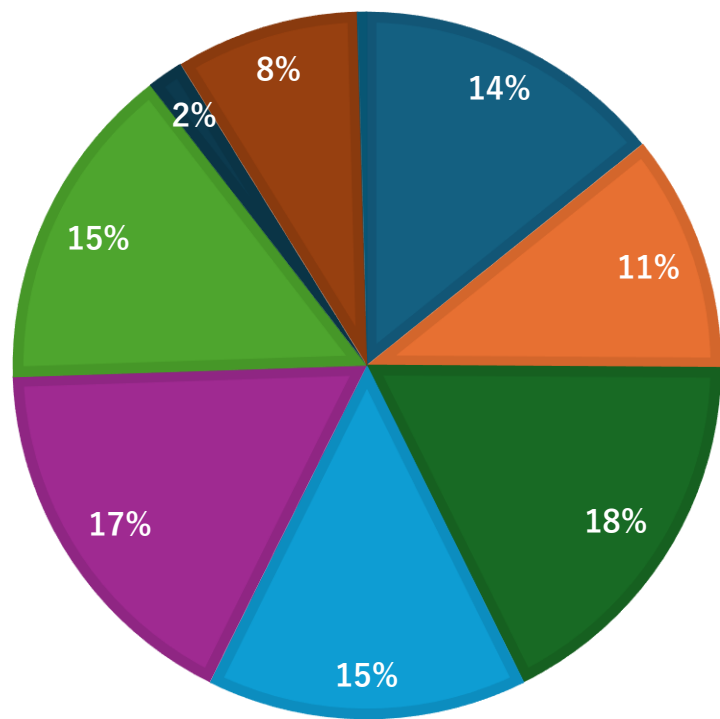


■ 継続したい
■ 内容を見直して継続したい
■ 簡素化したい
■ 廃止も検討している
■ 未定

選択肢	回答数
継続したい	31
内容を見直して継続したい	14
簡素化したい	4
廃止も検討している	4
未定	10

【真宗寺院における意味】

9. お斎の意味・意義についてどう感じますか？（複数選択可）



- 仏事の一部として重要
- 伝統行事として重要
- 門徒との交流の場
- 法要後の交流の場
- つながりを深める機会
- 仏縁を深める機会
- 見直しが必要
- 負担に感じる人もいる
- 特に意識されていない
- その他

選択肢	回答数
仏事の一部として重要	34
伝統行事として重要	26
門徒との交流の場	42
法要後の交流の場	35
つながりを深める機会	41
仏縁を深める機会	36
見直しが必要	4
負担に感じる人もいる	20
特に意識されていない	0
その他	1

【その他の回答内容】

- ・ 食べられる方が減っている。

10. 今後のお齋についての工夫・展望など、他寺院の参考となる取り組みや伝統と現代的事情のバランスなどお齋についてお感じのことをご記入ください。

・お寺で行われる伝統を大切にしたいので、ご門徒さんの負担にならない範囲でお齋を復活させたい。今はお齋を出していないが、とても良い交流の場になるため、復活した方がよいかもと検討しています。

・皆で集まって作った手作りのお齋が懐かしい。コロナで一旦辞めたら、元に戻すのが難しくなった。その頃が良かったが、現実問題、作る人が少なくなっている。何か良い考えがあったら参考にしたいと思います。

・コロナ禍以降、お齋をやめて赤飯の持ち帰りにしている。門徒さんからはおおむね好評だが、できれば法要後、会食形式のお齋を復活したいと思いつつ、今までと同じやり方はできない（高齢化、ずっとしてなかったもので、再度始めることの負担）ので、持ち帰り形式として続けている現実がある。

・門徒さんの負担を軽減することが必須になってきています。

・お当番の方々が高齢となり、体力面を考慮して食器でなくお弁当パックに変えました。いろいろなアイデアを皆さんが出し合って、ちょっとした料理教室のような感じで、“関わってみると楽しい”と感じてもらえている様子です。ただ、お齋に座る方がすごく少なくなって、せっかく作っていただいた力作なのに残念です。

・お齋をいま簡素化して、プラスチックの折に詰めている。何年かはまだ続けられると思うが、婦人会の負担も大きすぎるようになったら、中止もやむを得ないと思っている。

・夏場の法要はお斎をやめて（食中毒の心配があるので）、その他の季節ではお斎を始めました（年3回）。お手伝いの人数減少から、メニューの工夫、精進カレーの月を作るなど作業を減らす工夫もしています。

・若い人たちも楽しんでお斎の準備に参加できるような雰囲気づくりを心掛けている。皆、人との交流や交わり、一緒に料理をしたり、食べることを求めているので、その大切さを再確認してもらおう場としている。ご門徒さん以外の方にも来てもらえるように声をかけたり、食べた後の感想を調理場の人たちに伝える（フィードバック）するようにしている。

・年々、準備などが大変になり、また、作り手のご門徒さんも少なくなり、お斎を続けることが難しくなっているが、御正忌報恩講だけは実施していきたい。

・コロナから少し簡素になりましたが、絶対に続けていきたいです。そのことをきっかけに足を運んでくださるチャンスを一つでも残したいです。

・準備に来ていただく方々がいらっしゃるまでは続けていきたいです。

・コロナ以降、お斎を中止しています。中々再開するタイミングが見つけれず、このままでは以前お斎づくりに参加されていた方々がいなくなり、継承が難しいのでは…と思っています。何かしら現代に合った形で復活したい気持ちではいます。

・コロナをきっかけに中止し、現在は弁当を配布しています。婦人会のお手伝いが必須なので、その協力を得られるかが課題です。婦人会の方もお斎が無くなってよかったと言われると、なかなか以前のようにするのが難しい状況です。

・伝統として続けて残していきたい。しかしその時の状況に応じて変えることも可。あまりガチガチでなく、門徒の人達と話し合いながらやり続けようと思います。メニューレシピ（分量のことなども）をきちんと貼り出して、事前に打ち合わせをしていますので、若い人も意外に楽しんでやっています。

・過疎地のように高齢化も進み、お斎準備に人手不足となってきた。若い人との連携でなるべく復活し提供していきたいと思っている。

・時代とともに継承が難しくなる中で、次の世代が取り組みやすくするため“だれもができるレシピを作ったり、“クッキングの日“として、例会の一日を使い、出来るだけ楽しくできるようにした。

・誰でも（私でも）同じ味で出来上がるようにレシピを作ってお斎メニューを作っています。

・お膳を使用しているが、使用後の手入れの手間が大変で、今後、使い捨て使用など考えていきたい。

・お斎が無くなると心がはなれる。コロナの時に特にそう感じました

・精進料理は、健康志向や外国の方（ヴィーガン）などにも人気なので、仏事やご門徒さんだけではなく、地域の幅広い方々にも、お寺の伝統をお斎を通して知ってもらえるような機会を作りたい。ランチ営業や、「1日1組限定 お寺のお宿」みたいなことをしてお膳を出したい。

・参加する人が少なくなっているため、今後どうしていくか考えさせられます。

・お参りの席（勤行・法話）への参加者は多いが、お斎の席に座る人が少ない。聞法に座る人が一座 30～50 人の時に、お斎は 10 人くらい。

・他の寺の様子聞きたい。

・門徒の皆様と作るお斎は、協力してくださる方が減ってきている（高齢化、まだ現役で仕事をされている方が多い）。若い方はお寺へ足を運ばない。なので、お寺に納骨や礼参法事でお参りされる方に、寺側からお斎を出して、お斎を体験してもらっています。派手なお斎はできませんが、私なりの心ばかりのお斎です。

・地区ごとにお斎当番を回しています。若年化で仕事を持つ方も多く参加者も少なくなっています。大量に作ることに抵抗感があるようです。（味付等）お弁当にしてほしいという意見もありますが、数の把握も難しく費用もかさむので、今のところ移行はしていません。お斎は作るべきだという高齢の門徒さんの意見もあり、なかなか変えるのは難しそうです。

・人手不足や参加者の減少に伴い、2 日間しているところを 1 日にする、メニューを工夫して時間を短縮するなど、今後状況を見ながら続けていけたらという話をしています。縮小しても、報恩講に参詣される方が、お斎を頂きながら一緒に楽しく過ごせる時間があればいいなと思います。

・回数は減らしたが、楽しみにしておられる門徒さんがいらっしゃる限り、続けてゆけたらと思っています。

- ・食事の内容にこだわらないで、法要後のコミュニケーションの場として大事にできたらいいなァと思う。

- ・お斎の内容（食べるもの）も大切だが、皆が一同に会せることがいちばん大切にしたいと思っている。

以上、自由記述29件